

基礎型枠脱型後

ここでの監理者の心構え

基礎型枠を所定の養生期間置いて、はずすことになる。その際に、コンクリートの打設状況なども確認することになる。不良が発生していた場合、このチェックが遅れると面倒なことになる。例えば上棟時に初めて確認となった場合は、当然、手直しが難しくなる。また、1階の床を先行して張る工法の場合、基礎内部を確認できなくなってしまう。アンカーボルトとホールダウン金物の位置や状況についても、重要な確認事項となる。木造住宅の基礎コンクリートは、鉄筋コンクリート造に比べて軽視されがちであるが、ここが最後の確認となる。型枠をはずしたら、早めに監理者も確認しておく必要がある。(今回のチェックシートは、一部、土台敷きが終わった時点で確認する内容も含んでいます。)

工事名	工期	年	月	日()
	監理責任者			

項目	ポイント	✓	チェック項目
全般	耐圧版 参考写真①～②	<input type="checkbox"/>	ジャンカやひび割れがない 生じた場合は、最低でも無収縮モルタルで補修(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	硬化不良が生じていない(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	型枠留め金具のカット、補修が実施されている(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	水抜き孔が機能している(可・不可)
全般	基礎立上り 参考写真②～⑦	<input type="checkbox"/>	基礎立ち上がりの幅と高さが正しい(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	基礎立上りの側面に、ジャンカやひび割れがない 生じた場合は、最低でも無収縮モルタルで補修(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	硬化不良が生じていない(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	型枠セパレーターの穴・金物処理・補修が実施されている(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	基礎天端が水平になっている。誤差は最大4ミリ以内に(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	給排水管等のスリーブが設けられている(可・不可)
全般	基礎パッキン 参考写真⑧～⑪	<input type="checkbox"/>	基礎パッキンの施工間隔は、1m以内(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	柱の下・アンカーボルトの下に基礎パッキンが施工されている(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	土台継手の下に基礎パッキンが施工されている(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	土台下の基礎パッキンが容易に動かない 動くなら、調整パッキンを使用する(可・不可)
全般	土台 参考写真⑫～⑮	<input type="checkbox"/>	寸法及び材種を確認する(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	土台が水平である(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	土台と基礎の位置がずれていない(可・不可)
		<input type="checkbox"/>	土台の継手とアンカーボルトの位置関係が正しい(可・不可)

